

企業行動研究部会議事録（第 245 回）

日 時： 平成 29 年 1 月 16 日（月） 18:00-20:15

場 所： 中央大学駿河台記念館 3 階 350 号室

出席者： （16 名 岩倉、上原、勝田、河口、北川、西藤、佐久間、佐藤、出口、
永井、野瀬、比賀江、古山、松尾、峰内、宮澤、敬称略）

1. 連絡事項

峰内例会幹事の司会により開会が宣せられた。事務連絡の確認があり、河口例会幹事より以下の報告がなされた。

- ・理事会及び新年会開催の件

日時 平成 29 年 1 月 28 日（土） 15 時～16 時

場所 （一社）経営倫理実践研究センター セミナー室

議題案 省 略

- *理事会終了後の新年行事説明

- ・3月22日サラヤ株式会社更家社長を招聘して特別講演会（第9回シンポジウム）予定をご案内

2. 佐藤部会員年頭資料の説明等

日本記者クラブ年頭予想（前年・本年分）、

日経新聞経営者 20 名に聞く株価予想（2012～2017）、

料記事を中心に所感を交えながら説明を頂き、意見交換を実施

3. 第 1 テーマ：「企業不祥事と組織風土改革-全酪連と雪印乳業のケースを踏まえて

岩倉部会員より表題のテーマにより発表が行われ質疑・意見交換が行われた。

<報告骨子>

1. 岩倉の略歴
2. 問題認識と本日の報告
3. 全酪連牛乳不正表示事件と組織文化の革新
4. 雪印乳業食中毒事件と雪印食品牛肉偽装事件
5. まとめ

<質疑・意見交換概要>

- ・30年ないし40年前に他の乳業メーカーが雪印は実質全酪連を母体にしており、コンペティターとなりえないとの評価があった、いわば国策会社として機能していたとの説があり、そこに問題の本質があったとの認識があったがいかかが
- ・確かにその面はあったと言える。善悪ではなく日本の産業振興の役割を果たしていた

が、その性格がやや変貌したことは否めないと考える。

- ・資料 43P の宣誓書の提出先はどこか？→一般役員は社長へ、社長はコンプライアンス部へ出したと思う。
- ・本来監査役会に出すべきであったと考える。
- ・米国倫理学会への報告は誰がいつ行ったかを明記すべきと考える。
- ・当時雪印の監査役にヒアリングをした。他社の監査役が監査役にヒアリングをした例

が

なく動揺されたことがあった。

- ・当時の米国経営倫理学会会長から、雪印社の取り組みは高く評価されていた。

以下略

3. 第2テーマ：「創設 70 周年を迎えた経済同友会」（西藤部会員）

西藤部会員より表題のテーマにより発表が行われ質疑・意見交換が行われた。

<報告骨子>（抜粋）

- ・日本経済を支える三つの経済団体と概要
- ・公益社団法人経済同友会 Japan Association of Corporate Executives
創立 1946 年 4 月終戦直後の荒廃の中で、「新生日本の構築に全力を捧げたい」と誓った 83 名の発起人により設立、現在 1400 名（東京）を超える会員で活動
（各地経済同友会と会員数 合計 14,976 名（2016 年 7 月 1 日現在））
- ・一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）Japan Business Federation
企業会員 1,336、団体会員 156、特別会員 32、計 1,524（2016 年 3 月 31 日現在）
- ・日本商工会議所 The Japan Chamber of Commerce and Industry
創立：1878 年、渋沢栄一他の提唱で設立、会員企業 125 万、各地商工会議所（日本国内）515、海外進出日系企業が組織する日本人商工会議所など 82 ヶ所
- ・経済同友会の歩み

以下略（配布資料参照）

<質疑・意見交換概要>

- ・同友会には表面的な光の部分と影の部分があり、その点についても触れるべき
- ・全体としてよい活動が行われそれは、個人の問題ではないか
- ・例えば原発問題について同友会はいかなる見解を持つかなど、影の部分も確認すべき
- ・様々なミッションが行われているが、例えば岩倉使節団のような深い活動が行われて

い

るかは気になる

- ・木川田氏は確かに東電トップであった方であるが、原発を本質的に推進したのは正力

氏

であったと記憶する。そのあたりも把握すべきかと思う

以下略

4. 当日提出資料関連発表

上原部会員提出の「企業統治に世間の良き慣行を取り入れる提案」について発表が行われ質疑が行われた。

<報告骨子>

今回の報告は昨年12月日本世間学会に出した原稿である。日本で「世間」と「社会」という言葉があるが概ね「世間」は影の部分を示すことが多い。

イメージとして世間というのは悪いものとする風潮があったが、最近は良い世間と、悪い世間があり、良い世間の中に重要なことがあるということを指摘した。

わが国の企業統治を有効に機能させるために、見落としている点がある。それは日本人の心にしみ込んだ神への謝意であり、畏敬の念である。

会社法には監督、執行、監査の機関として取締役、監査役が定められているが、象徴という機関はない。けだし、会社を象徴するのは創業者である。

この提案では、問題意識を企業者に持ってもらうところで終わりたい。

経営倫理の過去・現在・未来を考えるのが今年のテーマとなっているが、ここに出てこ

ないものは日本の神である。こうしたことをより美しくまとめて頂いたのが本日提出された峰内メモと考える。よくまとめて頂いた。次回以降に是非ご説明頂きたいと考える。

<質疑・意見交換概要>

- ・世間とは仏教用語ですね→そうですね
 - ・世間とは英語でなんというか→ないのでは？→This world でしょう
 - ・成功している人は何故神社に行くのかという本があり売れている
 - ・宗教法人を登録する場合、必要なものは本尊と聖典であるが神道の場合聖典は何か？
- と
- なるとそれは祭であるとされる
- ・神社本庁があり、すべてを管理している
 - ・宗教とは言わないが、宗教性ということを論じないと、経営倫理も品質管理も進み難い。

日本的なということを語ったとき実は宗教性について語る事が重要

- ・松下イズムとか、本田イズムとかいうことがそれにあたるのではないか
 - ・最近の学会は、価値観を排除しようとしていると思う。経営の価格化などを論ずる現代
- 的学者が多くなっていることは問題と考える

- ・倫理のバックボーンは宗教性ではないか→そういう発想が整然として間違いを起こす
→それは次回の峰氏の発表をまとう
- ・倫理というのは宗教からの開放を求めた啓蒙思想以降の発想が倫理である。宗教が幅を
利かせていた頃は、全く倫理など問題でなかった。
以下略

5. その他

勝田部会長より、次回の日程（2017年2月13日）確認と、議題提案の依頼が行われ閉会した。

（文責：河口）

議事録送付先(敬称略)：

[部会員]：朝倉、荒川、安藤、井上(真)、井上、岩倉、上原、遠藤(淳)、遠藤(梨)、大泉、大島、岡田(佳)、勝田、加藤、河口、川村、北川、木下、熊本、栗栖、桑山、小池、西藤、斉藤、佐久間、櫻井、佐藤、柴柳、鈴木(啓)、瀬名、潜道、高橋、武谷、田村、出口、徳山、中島、永井、那須、西井、西村、野瀬、野田、比賀江、樋口、肥後、菱山、平塚、古谷、古山、前原、増岡、増澤、増淵、松尾、松本、丸山、水島、水野、峰内、宮川、宮澤、山口、山中、山本、横館、吉村、石川

[学会本部]：梅津会長、水尾副会長、高橋前会長、内田事務長